

環境振動設計指針策定 WG 準備会 議事録 (案)

A. 日 時 2016年1月13日 水曜日 17:30～19:30

B. 場 所 建築学会 201 会議室

C. 出席者 濱本主査 他 11 名

D. 提出資料 (提出委員名)

No. 0-1 WG 設置申請書

No. 0-2 2016 年度 WG 活動計画案

No. 0-3 評価指針の内容

No. 0-4 環境振動シンポジウム (第 31, 32, 33 回)

E. 議事内容

1. 環境振動設計指針策定 WG について (資料 No. 0-1, No. 0-2)

○本 WG の設置目的と活動計画が説明された。

- ・本 WG は環境振動運営委員会の環境振動設計ガイド策定小委員会に属する。
- ・評価と設計が一体となった従来の「居住性能評価指針」を、「評価指針」と「設計指針」に分離して改定することとなったため、「設計指針」を策定し、「評価指針」とほぼ同時期に出版するための作業を行う。
- ・WG 設置期間は 2016 年 4 月からの 2 年間。初年度は「床振動(歩行中心)」、「交通振動(道路中心)」、「自然外力(風中心)」の 3 つの SWG に分かれてそれぞれ作業を行い、2 年目に SWG を統合して全体の調整と最終原稿の作成を行う。

○本 WG のメンバー構成について説明された。

- ・小委員会の主査である濱本先生を主査とし、小委員会のメンバー 3 名 (上明戸・佐伯・原田) に、以前「環境振動性能設計ハンドブック」の作成に参加して頂いた方に声をかけて環境振動設計の実務者を集めている。また、運営委員会の国松主査からの提案で地盤振動の専門家である小島氏にも加わって頂いた。(WG メンバーの自己紹介実施)
- ・先行して策定中の「評価指針」との関連が深く、情報共有および全体調整が必要と考えられるため、環境振動運営委員会の主査である国松氏、居住性能評価指針改定小委員会の主査である横山先生、性能評価法検討 WG の主査である松本先生にも、オブザーバとしてご参加頂くこととした。

2. 「評価指針」の内容紹介 (資料 No. 0-3)

○新評価指針の概要が紹介された。

- ・指針の内容は、「定常的な振動」と「非定常な振動」に分けて記載。それぞれに鉛直振動と水平振動がある。
- ・非定常な振動に対しては、鉛直振動に関しては継続時間による低減量を付加する評価方法を取り入れる予定である。一方、水平振動に関しては非定常振動用の等評価曲線を 1 種類提示することを考えている。
- ・現状では鉛直と水平で足並みがそろっていないところもあるため、同じ枠組みに基づいた性能値の設定を目指しさらなる検討を重ねる。

3. 「設計指針」の考え方 (資料 No. 0-4)

○居住性能マトリクスについて説明された。

- ・横軸は人体影響ランク、縦軸は入力レベル。
- ・振動源を 3 つのグループに分類して考える。

- a) 非定常性は大きいが変動性は小さいもの (ex. 歩行, 設備機器)
- b) 非定常性も変動性も大きいもの (ex. 交通, 工事, 工場)
- c) 非定常性も変動性も小さいもの (ex. 風, 長周期地震動)

○居住性能マトリクスを基本とした設計手順について説明された.

- ・「評価指針」を活用した性能設計の流れの中で「評価指針」を用いるところのごく一部. 大部分は「設計指針」の範疇と考えられる.

○「設計指針」について

- ・“指針”ではなく“ガイドライン”ではないかという意見もあるが, “指針”と呼べるレベルのものを策定したい.

4. SWG について

○「床振動」, 「交通振動」, 「自然外力」の3つのSWGを設置する. 担当は下記.

- a) 床振動 SWG : 片岡, 佐伯, 吉松
- b) 交通振動 SWG : 上明戸, 小島, 東田
- c) 自然外力 SWG : 西川, 原田

○濱本主査は全体総括とする. 小田島委員については本日欠席の為, 後日決定する.

○自然外力 SWG には風振動の専門家にも入って頂く方向で調整する.

5. その他

- ・次回 WG 開催予定 : 2016 年 4 月 20 日 (水) 17:30~19:30

以上